

山口のりひさ 県議が10月5日、9月県議会（9/26～10/17）一般質問に立ちました。質問と答弁の要旨を紹介します。



＊ ＊ 仕事と介護の両立について ＊ ＊

山口 長野県は介護離職が急増し、離職率は全国第2位。多くの人は、離職しても経済的負担、肉体的・精神的負担がかえって増えたところにいる。介護離職は企業にとっても社会にとっても損失だ。県内の企業で仕事と介護を両立するための支援制度の現状はどうか。

産業労働部長 支援制度がある企業は26%。支援制度を設けるよう、アドバイザーが助言を行っていく。現場の声を聞き、支援制度を利用しやすい職場環境づくりに取り組んでいく。

＊ ＊ 介護保険制度について ＊ ＊

山口 仕事と介護の両立には、介護サービスの基盤の整備が求められている。特別養護老人ホームの待機者は、待機ゼロの展望を伺う。

健康福祉部長 県内では入所待ちの人数が2246人。平均期間が350日だ。

山口 現在の介護保険は、サービスの利用が増えたり介護職の労働条件を改善すれば、保険料・利用料の負担増に跳ね返るといふ根本矛盾を抱えている。県独自の介護職の給与引き上げの助成が必要だ。また国に対し公費負担の大幅な増額を働きかけるべき。

健康福祉部長 介護保険財政の安定化は重要な課題。独自の助成ではなく、国に対し国庫負担の拡充等要望を今後もしていく。

＊ ＊ 信州F・POWERプロジェクトについて ＊ ＊

山口 県として事業計画策定に大きく関与している事業であり、補助金も25億円と多額。事業が計画通り進捗しているか、検証・確認する体制が必要では。

林務部長 中島副知事をリーダーとした部局連携のプロジェクトチームを設置した。

山口 安定的な事業運営はされているか。

副知事 進捗管理、取り組みの有効性をチェックし、指導・支援を実施していく。

質問を終えて

介護保険では、特養の待機者ゼロの展望が明らかにされないなど、利用者や家族の視点が弱い事を痛感しました。仕事と介護の両立に向けて引き続き頑張ります。